

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 15 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2008 年度～2011 年度

課題番号：20320077

研究課題名 (和文) 大規模英語学習者コーパスのエラー情報を活用した言語テスト構築の基礎的研究

研究課題名 (英文) Basic Research on Language Test Design and Construction Using Error Information from Large-Scale Learner Corpora

研究代表者

根岸 雅史 (NEGISHI MASASHI)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：50189362

研究分野：英語教育学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：(1) 学習者言語 (2) 言語テスト (3) エラー分析 (4) 習得度診断 (5) 第2言語習得 (6) CEFR (7) 学習者コーパス (8) 到達度指標

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、以下の通り。

- (1) 英語学習者データを大量に収集電子化した「英語学習者コーパス」をもとに、学習者の語彙・文法エラーに関する情報をコーパスから系統的に抽出
- (2) それらの学習レベル別の特徴を分析
- (3) 分析結果をもとに言語テスト作成を行う方法論を確立
- (4) テストの試作品を作成・検証

2. 研究の進捗状況

これまでに、JEFLL Corpus (中高生約1万人の英作文コーパス) に正解文を対応付けしたデータに対して、投野が Edit distance という手法を用いた誤り同定の解析を試し、和泉が RASP という構文解析器でタグ付与したものの差分取り出しのプログラムを開発した。

昨年度は、これらの分析結果を反映したプロトタイプテストを試作するに当たり、どのような言語特性が言語能力の弁別力が高いかを見るために、根岸・投野・長沼・工藤が Cambridge ESOL と連携して推進している English Profile Programme のために収集した作文データを分析した。この分析に当たっては、各作文データにおける言語特性の出現をチェック・リストに記録しており、これをテスト項目への反応として扱い、項目分析を行う予定である。本年度は、項目分析から明らかになる、弁別力の高い項目を入れ込んだ新しいかたちの英語の習得段階を見るテストを開発する予定。

English Profile Programme の成果をもとにした phrasal verbs の習得度テストに関し

てはすでにこれを作成し、データの収集・分析を行った。Cambridge ESOL が保有する学習者コーパスをもとになされた phrasal verbs の CEFR のレベル判断は、部分的なデータの欠損などもあり、一部は担当者により主観的になされている。本プロジェクトで作成・実施した phrasal verb test および教科書分析の結果から、これらの判断の妥当性を検証し、Phrasal verb の CEFR レベル判定を精密化した。

3. 現在までの達成度

- ②おおむね順調に進展している。
- (1) 学習者コーパスに基づく分析は、ほぼ予定通り進行している。
 - (2) Phrasal verb test の開発は、ほぼ終了し、海外でもこれを利用したデータ収集が行われている。
 - (3) 英語の習得段階を見るテストは、テスト項目の候補が現在挙がりつつあるが、これらが新型テストの中で有効に機能するかは、今後の結果次第である。

4. 今後の研究の推進方策

- (1) 弁別力の高い言語特性を同定する。
- (2) 弁別力の高い言語特性を含んだテストのパイロット版を作成する。
- (3) パイロット版を実施し、改良を重ね、最終版を作成する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

Masashi Negishi, Yukio Tono, and Y. Fujita, A validation study of the CEFR levels of phrasal verbs in the English profile wordlists. (in press), *Proceedings for 2010 BAAL Conference, Aberdeen*, 査読有
Yukio Tono, A Critical Review of the Theory of Lexicographical Functions, LEXICON, 査読有, 40号, 2010, 1-26

〔学会発表〕(計5件)

Masashi Negishi, Yukio Tono, and Yoshihito Fujita, A validation study of the CEFR levels of phrasal verbs in the English Profile Wordlists, British Association for Applied Linguistics, 2010年9月9日, University of Aberdeen

Masashi Negishi, The development of the CEFR-J: Where we are, where we are going, WoLSEC International Symposium 2011, 2011年3月2日, 東京外国語大学

Yukio Tono, Automatic extraction of L2 criterial lexico-grammatical features across pseudo-longitudinal learner, The European Second Language Association (EUROSLA) - Thematic colloquium: Researching vocabulary use: insights from corpus analysis 2010年9月4日 Reggio, Emilia, Italy

和泉絵美, 知っている語彙と使える語彙—英語学習者コーパスからの検証—, 京都外国語大学メビウス研究会第164回研究会, 2010年11月27日, 京都外国語大学

工藤洋路・長沼君主・小野倫寛・高野正恵・増田斐那子, 英語ライティングにおけるコンピュータ自動採点の妥当性とCEFRライティング評価との関連の検証, 外国語教育学会, 2010年11月14日, 東京外国語大学

〔図書〕(計2件)

投野由紀夫(監修) & Christian James(英文校閲), 東京書籍, フェイバリット英単語・熟語<テーマ別>コーパス 1800, 2010, 272pp.

Weir, G. & Ishikawa, S. (eds.), University of Strathclyde Publishing, Learner Corpus Research: Some Recent Trends. In: Corpus, ICT, and Language Education, 2010, 140pp. (pp. 7-17)